

# なぜ、物語なのか

- 織田信長は誰にどこで暗殺されたか？
- 織田信長はいつ暗殺されたか？
- 人は物語として現実を把握する

# Narrative物語とは

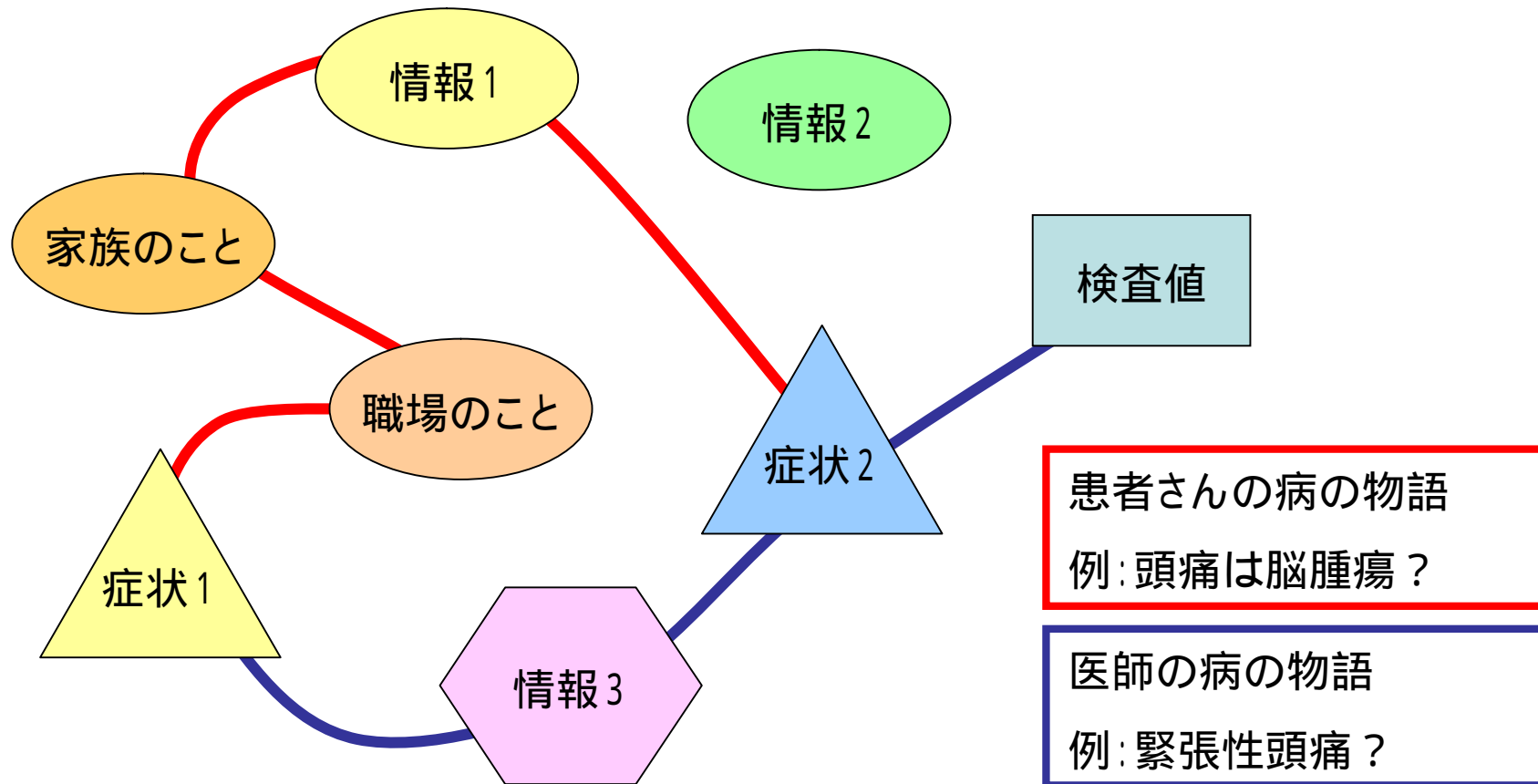
- ある出来事についての言語記述(ことば)を、何らかの意味ある連関によってつなぎあわせたもの
- ことばをつなぐことによって意味づけるもの

# Storyとplot

## 「王様の死」「王妃様の死」

- 王様が亡くなりました。そしてその後すぐに、王妃様も亡くなりました。
  - 時間経過に沿った物語 (story)
- 王様が亡くなりました。そして悲しみのあまり、王妃様も亡くなりました。
  - 因果的に意味づけられた物語 (plot)

# 患者も医師も自分なりに物語っている



一つの現実世界に複数の物語(plot)がある

# Narrative Medicine

## - コロンビア大学の試み -

- 患者に対する「事実偏重」の対処法
- 物語を診断や治療の中心にする試み
  - 医師として行うことの多くが物語を中心に展開
    - 患者は自分の病気について物語る
    - 医者は自分の言葉で疾患を物語る
  - 検査結果の分析と患者物語の理解ができる医師
    - 共感する能力を高める
    - 患者の訴えに敏感になる 正しい診断、治療のために

# ビジネスにおける組織的ストーリーテリング ゼロックス社の試み

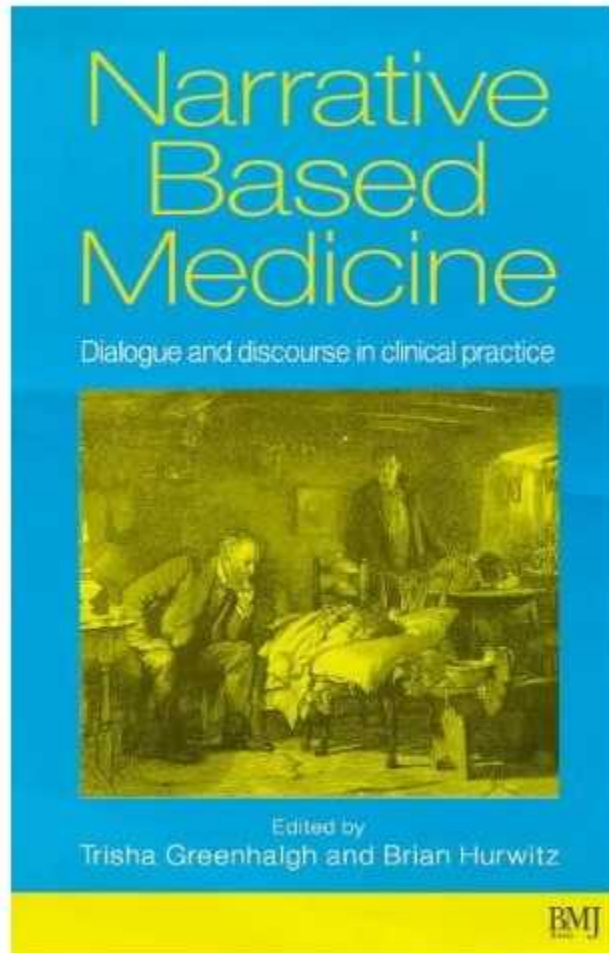
- ・ 修理部門の社員達はマニュアルからでなく、他の社員と話を交わすことで機械の修理を学んでいた
- ・ 社員が持つ「物語」をデータベース化した(「ユーレカ」)
- ・ 「ユーレカ」の資産価値は1億ドルと言われている  
そのノウハウは他社が真似できない資産価値

同様の試みがヒューレット・パッカー、3Mでも始まっている  
「組織の情報は、組織内で語られる物語の中にある」  
情報からいかに物語りを紡ぐかが重要

## EBM (疫学) と NBM (個々の事例)

- <この治療法での有効率は55%です>
- 「お話はよくわかりました。ところで先生、  
**私は**効く方でしょうか、効かない方でしょうか？」
  
- <この病気の平均余命は3年です>
- 「お話はよくわかりました。ところで先生、  
**私は**後何年生きられますか？」

# NBMの生い立ち



- 英国のプライマリ・ケア医の間から起こったムーブメント
- 多くはEBMを専門的に研究・実践してきた人々
- EBMの対立概念ではなく、EBMの実践に際し必要から生まれたもの



# NBMの定義

病を  
人生という大きな物語りの中で展開する一つの物語として捉え、  
患者を物語の語り手として尊重すると同時に、  
医学的診断や治療法も  
あくまで医療者側の一つの物語りとして相対化し、  
両者をすり合わせる中から新たな物語がうまれてくることを  
治療と見なす、  
という姿勢を基本におく医学

(斎藤清二、岸本寛史「ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践」)

# NBMのプロセス

1: 「患者の病いの体験の物語」の聴取のプロセス



2: 「患者の物語りに関する物語り」の共有のプロセス



3: 「医師の物語り」の進展のプロセス



4: 「物語りのすり合わせと新しい物語りの浮上」のプロセス



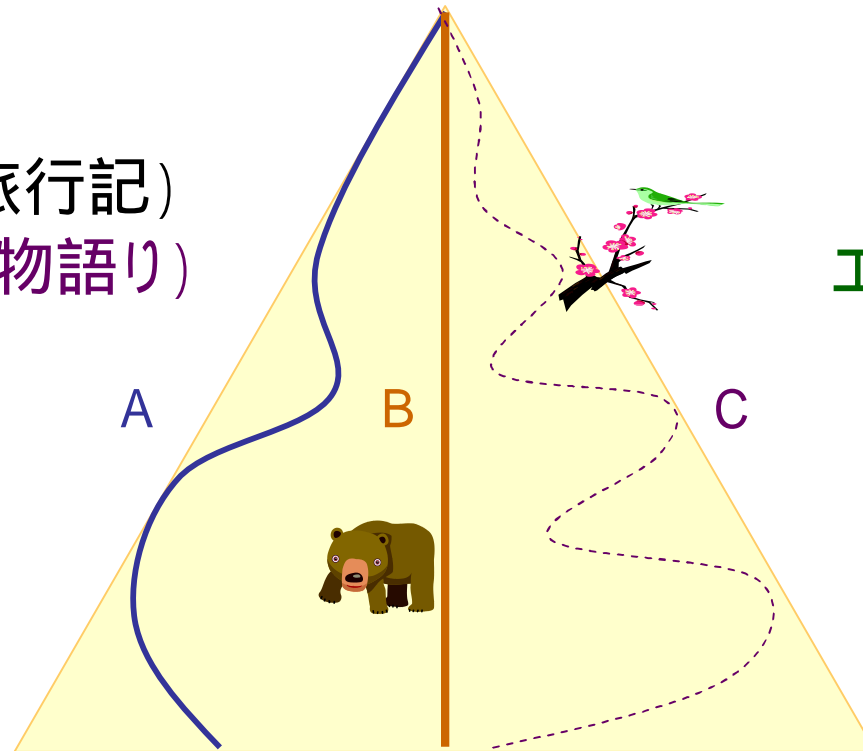
5: ここまでの医療の評価のプロセス

(斎藤清二、岸本寛史「ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践」)

# E B M と N B M

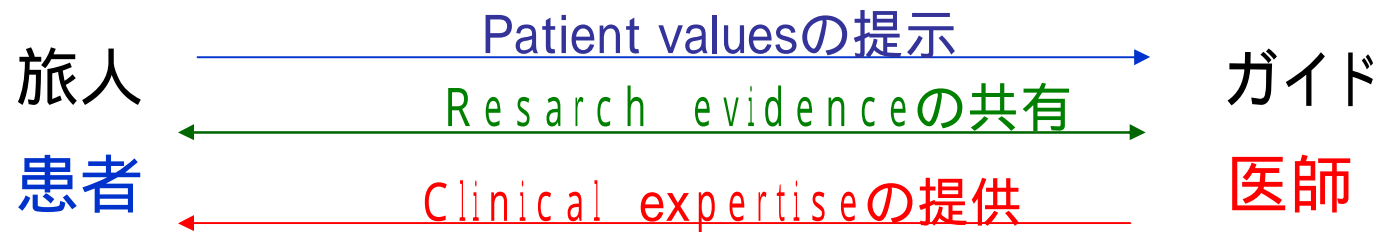
## 頂上 臨床問題の解決

旅の過程 (旅行記)  
Narrative (物語り)



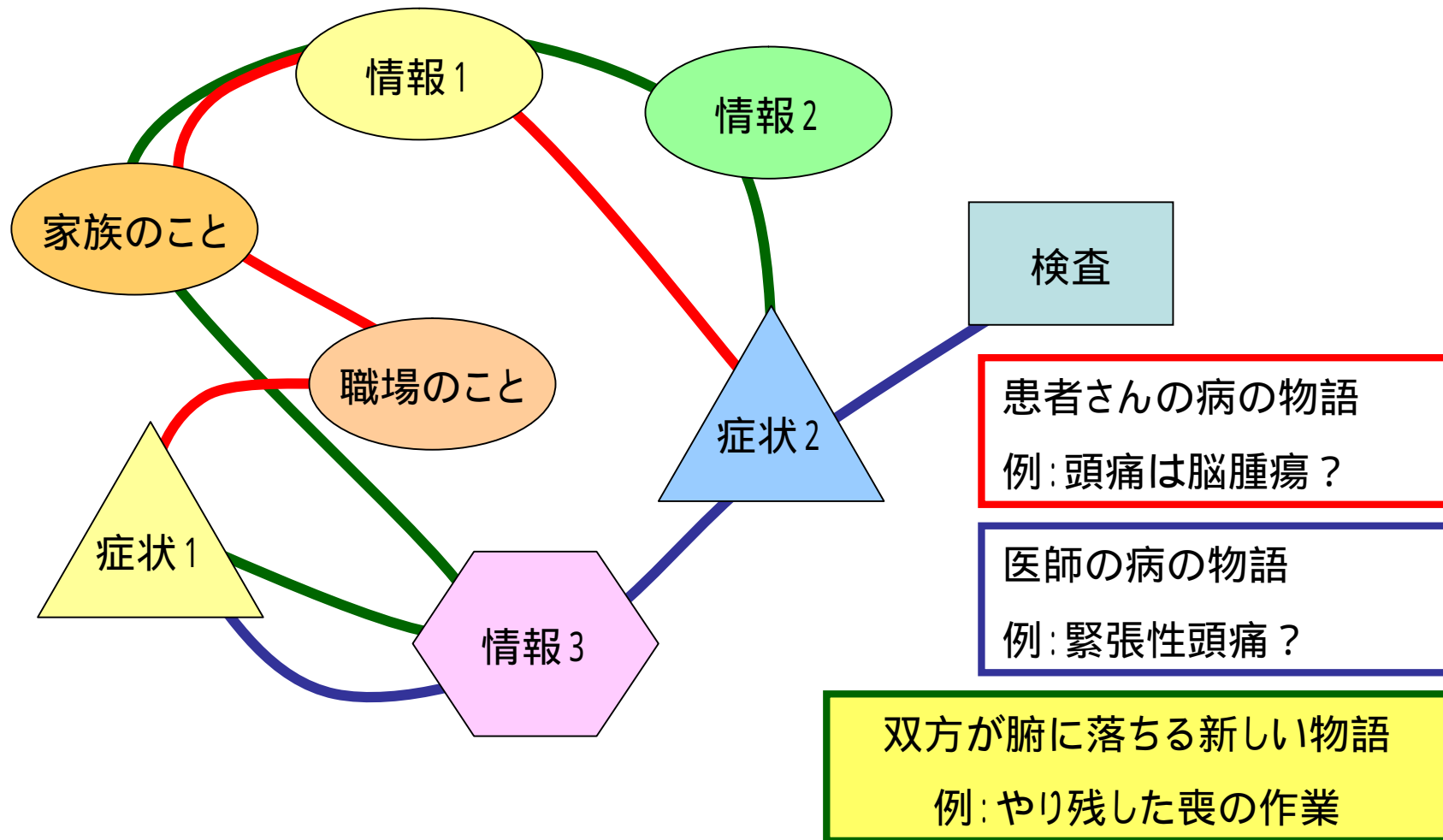
地図 (縮尺度)  
エビデンス (序列)

地図もエビデンスも  
本来無機質なもの



(北, 2006)

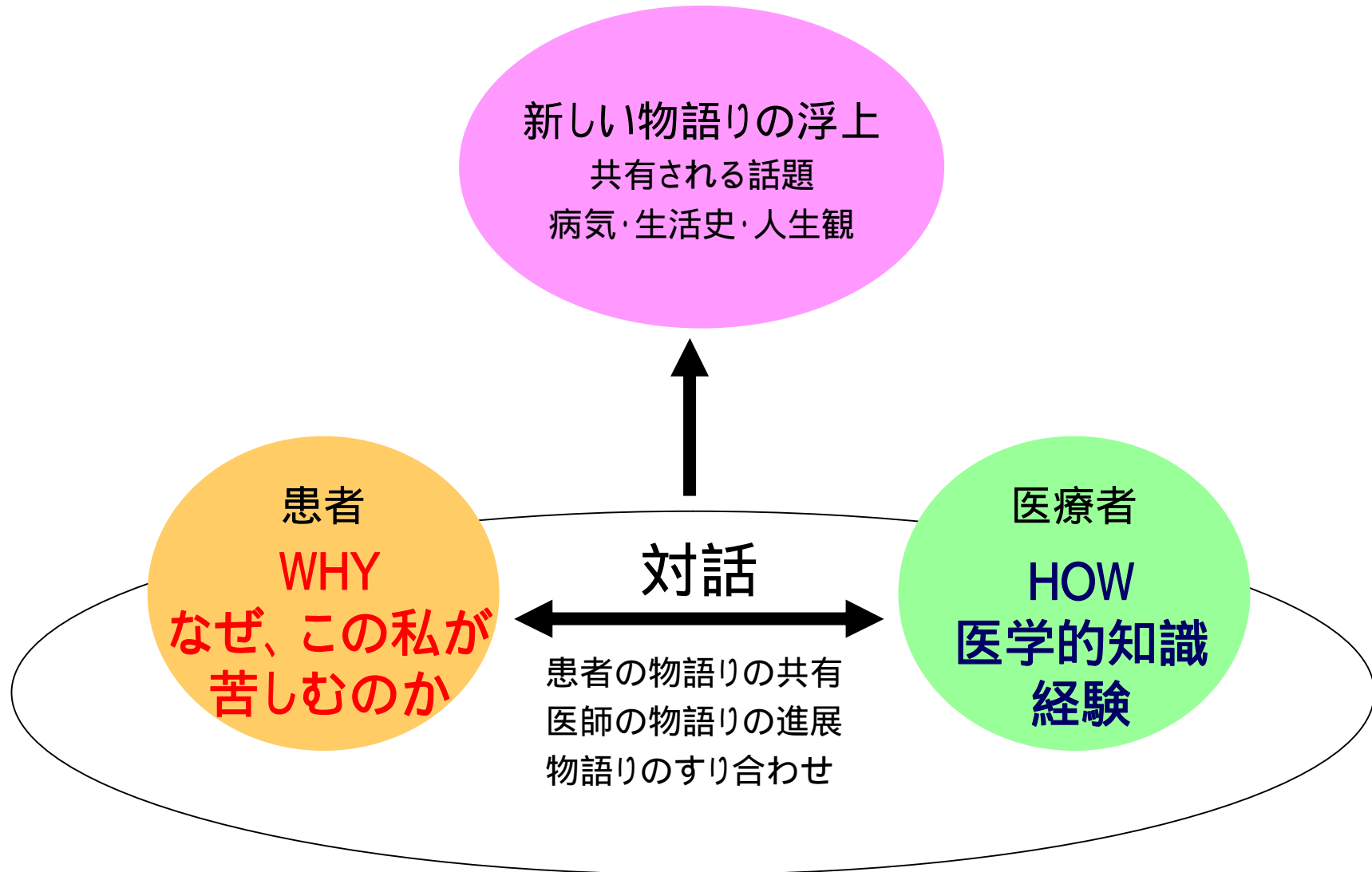
# 新しい物語の創出



# NBMの特徴

- 主観の尊重
  - 患者を物語りににおける主体として尊重
- 多元的、相対主義的視点
  - 絶対的に正しい唯一の物語りなど存在しない
  - 全てを相対化
    - 医療者の見解や判断も「一つの物語」
    - 疫学的エビデンスも「一つの物語」
- 関係性の重視
  - 治療者と患者との対話を重視
  - あたらしい物語の創造を治療とみなす
  - 大変難しく、エネルギーを使うこと

# 新しい物語りの創出と難しさ



# Narrativeが展開するとは？（私見）

- ほっとすること、腑に落ちなかったことに合点がいくこと
- 病の体験を自分の中におさめていくために必要なプロット  
(岸本寛史)
- 「エビデンスという公の物語」も展開の機転になることが多い  
NBMではプロットの一つととらえる

# 医師患者関係に潜む問題

## 二者性の問題

患者



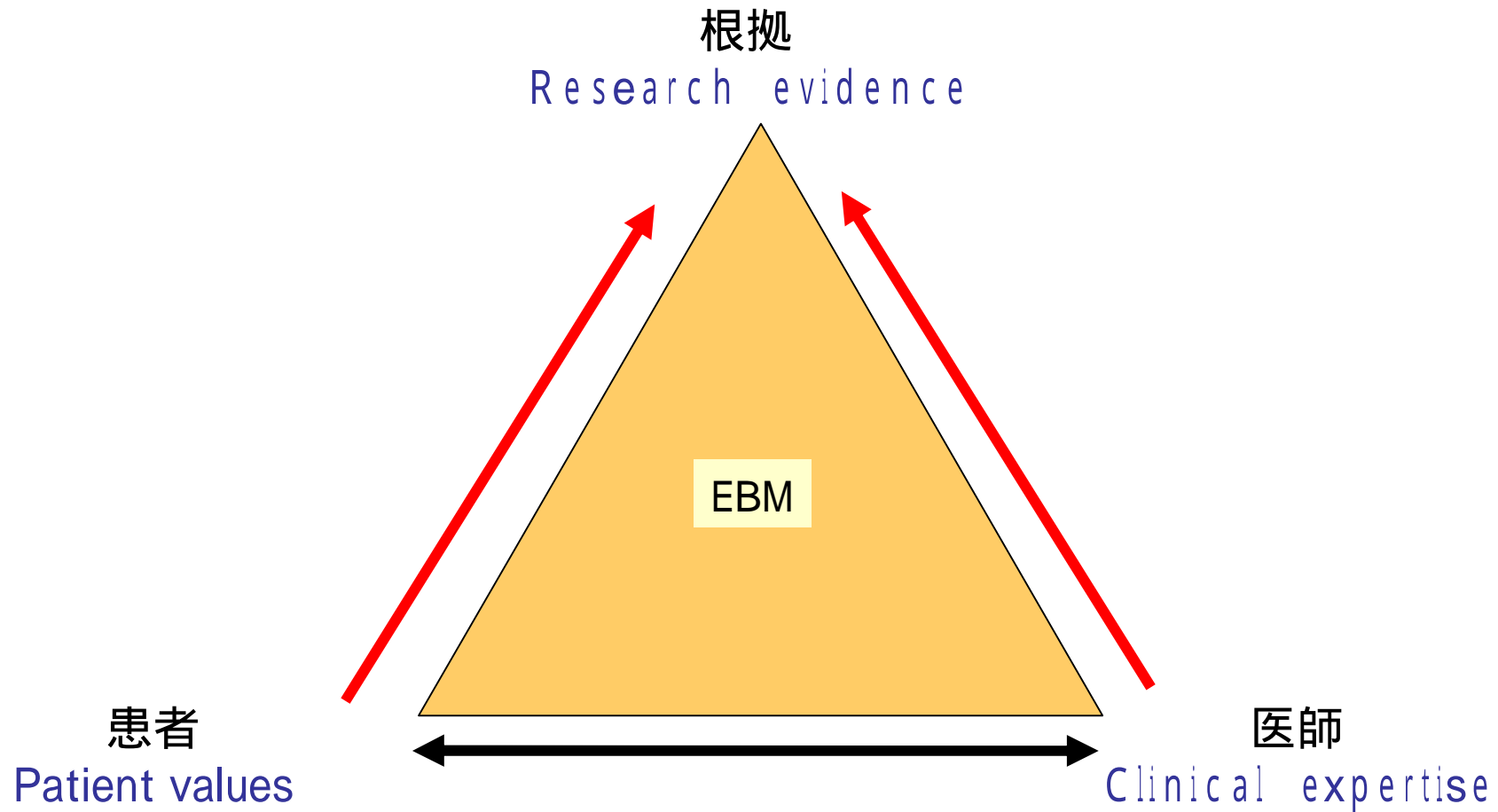
医師

なんとなく、ギクシャクするとき  
ひどく腹立たしく思えるとき  
ひどく思いいれが強いとき

極端な心理状態になる関係には二者関係の病理が潜んでいることがある  
転移、逆転移、投影



# エビデンスを介する対話の効用 二者性から三者性へ



エビデンスを眺め・語る関係を作る

# NBMで必要な視点

自分を見つめるもうひとつの視点

メタ認知

離見の見

空中に浮かぶ  
自分の眼球  
(神田橋先生)

全体を  
一望しながら  
作業を続ける  
視点

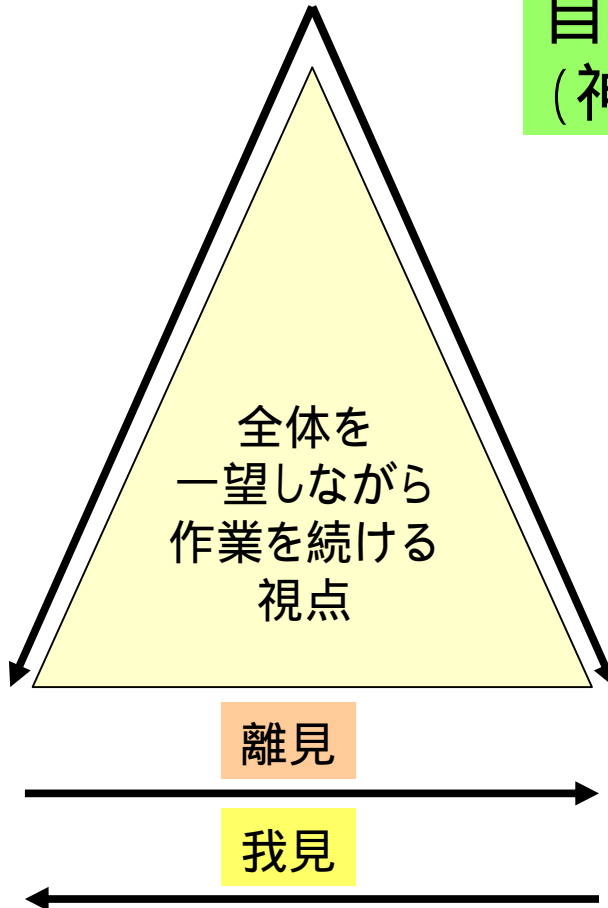
患者  
観客

医師(自分)  
演者(自分)

離見

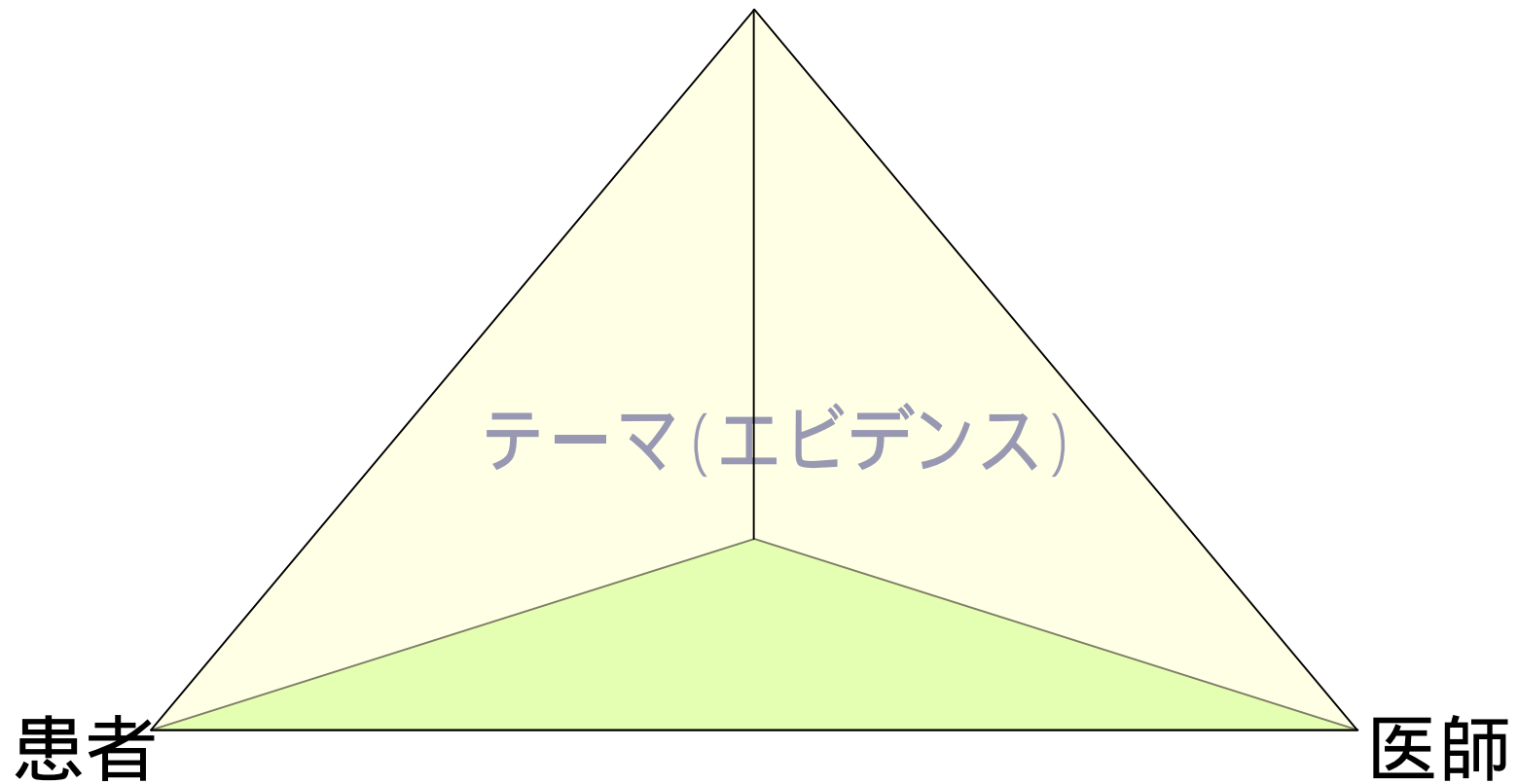
我見

「花鏡」(世阿弥)

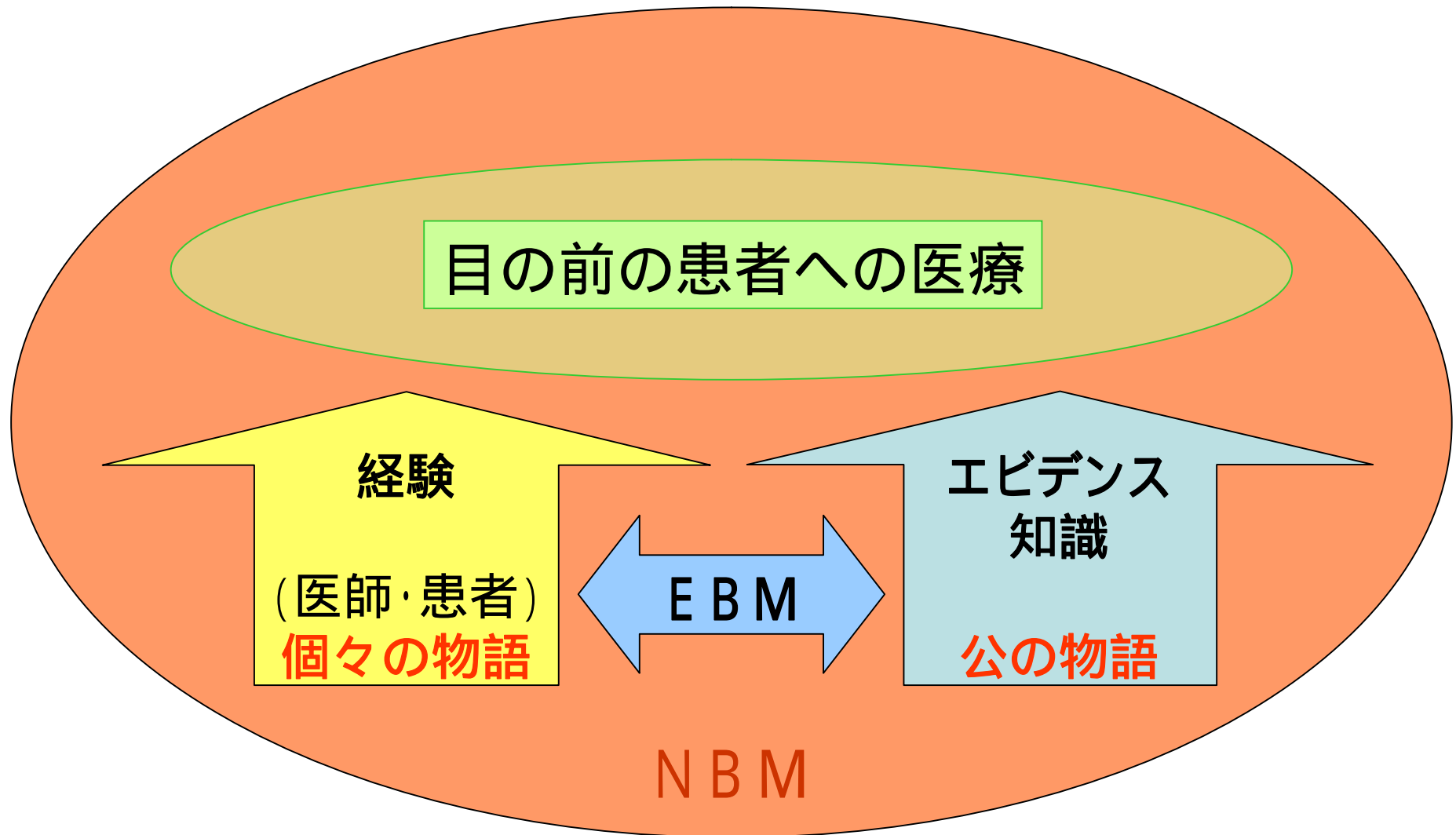


# EBMとNBMの統合的視点

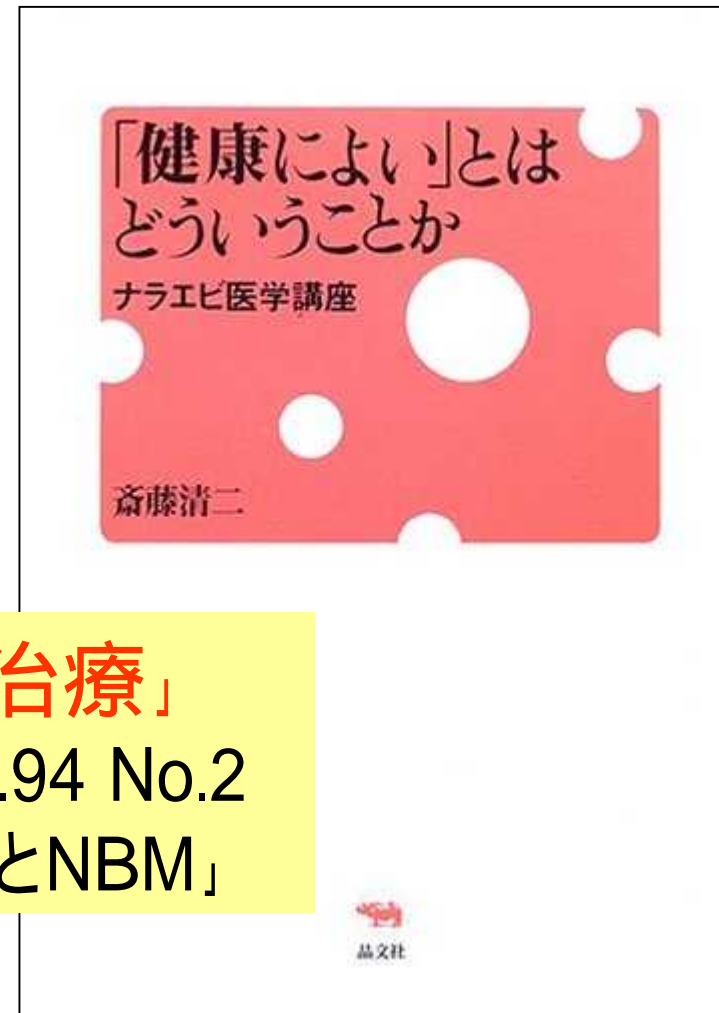
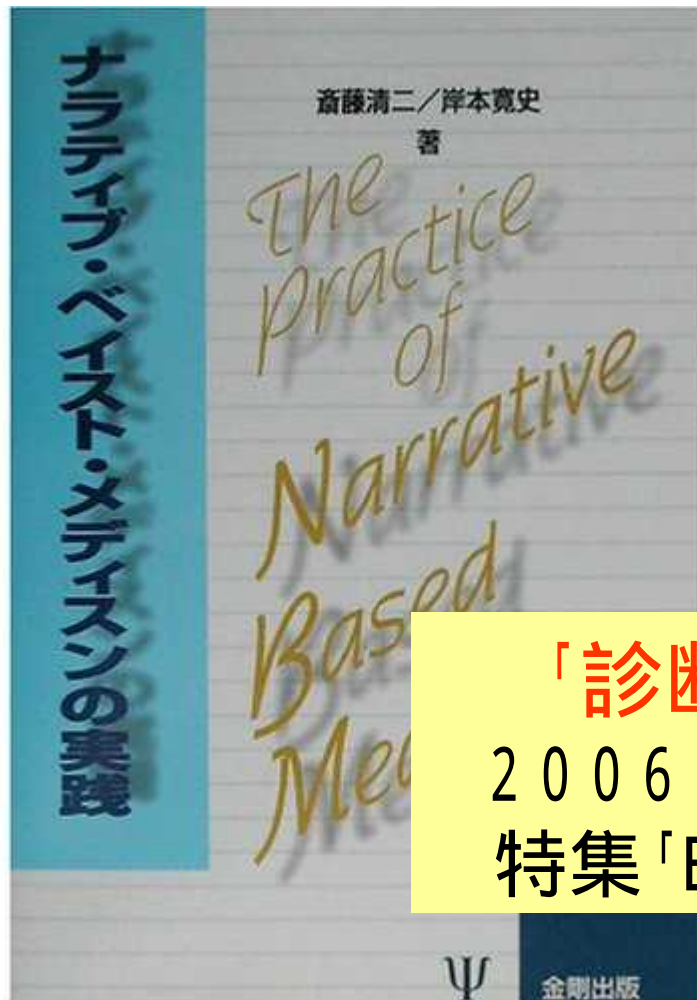
メタ認知(全体を俯瞰する視点)



# EBMとNBM



# NBM お勧めの本



「診断と治療」  
2006 . Vol.94 No.2  
特集「EBMとNBM」